

平成 27 年 10 月 21 日

【照会先】

岩手労働局職業安定部職業対策課

課 長 永 洞 昭 雄

高齢者対策担当官 熊 谷 一 郎

電 話 019-604-3005

報道関係者各位

平成 27 年岩手県内における「高年齢者の雇用状況」集計結果

— 希望者全員が 65 歳以上まで働ける企業割合は

84.4%で全国 1 位（全国平均 72.5%） —

岩手労働局(局長 久古谷 敏行)では、高年齢者を 65 歳まで雇用するための「高年齢者雇用確保措置」の実施状況など、平成 27 年「高年齢者の雇用状況」(6 月 1 日現在)の集計結果をまとめましたので、公表します。

65 歳以上まで働ける制度は、高年齢者雇用安定法の義務を超えるものであり、岩手労働局では、少子・高齢化の進行、将来の労働力人口の低下等を踏まえ、生涯現役社会の実現に向け、年齢にかかわらず働き続けることが可能な企業の普及・啓発等に取り組んでいます。

【集計結果の主なポイント】

1 高年齢者雇用確保措置の実施状況

高年齢者雇用確保措置を「実施済み」の企業の割合は98.9%（対前年差2.1ポイント増加）
(10ページ表1)

- ・ 中小企業は 98.8%（同2.1ポイント増加）
- ・ 大企業は 100.0%（同1.9ポイント増加）

2 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

(1)希望者全員が65歳以上まで働ける企業は1,495社（対前年差93社増加）、割合は**84.4%で全国1位**（同1.7ポイント増加）（12ページ表4、13ページ表6）

- ・ 中小企業では1,422社（同90社増加）、85.3%（同1.6ポイント増加）
- ・ 大企業では73社（同3社増加）、69.5%（同2.2ポイント増加）

(2)70歳以上まで働ける企業は404社（同42社増加）、割合は22.8%（同1.5ポイント増加）
(12ページ表5)

- ・ 中小企業では388社（同41社増加）、23.3%（同1.5ポイント増加）
- ・ 大企業では16社（同1社増加）、15.2%（同0.8ポイント増加）で、中小企業の取り組みの方が進んでいる。

3 定年到達者に占める継続雇用者の割合

過去1年間の60歳定年企業における定年到達者(2,759人)のうち、継続雇用された人は2,334人(84.6%)、継続雇用を希望しない定年退職者は417人(15.1%)、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった人は8人(0.3%)（14ページ表7-1）

「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」では 65 歳までの安定した雇用を確保するため、企業に「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入(※)」のいずれかの措置(高年齢者雇用確保措置)を講じるよう義務付け、毎年6月1日現在の高年齢者の雇用状況の報告を求めています。

今回の集計結果は、この雇用状況を報告した従業員 31 人以上の企業 1,772 社(本社:岩手県)の状況をまとめたものです。なお、この集計では、従業員 31 人～300 人規模を「中小企業」、301 人以上規模を「大企業」としています。

<集計対象>

岩手県内に本社を置く常時雇用する労働者が 31 人以上の企業 1,772 社。

中小企業 (31～300 人規模) : 1,667 社

(うち 31～50 人規模 : 727 社、51～300 人規模 : 940 社)

大企業 (301 人以上規模) : 105 社

(※)継続雇用制度

以下のいずれかを満たす制度をいう。

- 1 65 歳未満の定年を定めている企業で、定年後希望者全員を 65 歳以上まで雇用する制度
- 2 65 歳未満の定年を定めている企業で、平成 25 年 3 月 31 日までに、労使協定で、65 歳までの対象者の基準を定めている場合は、老齢厚生年金(報酬比例部分)の受給開始年齢に到達した以降の者を対象に、基準を引き続き利用できる制度

1 高年齢者雇用確保措置の実施状況

(1) 全体の状況

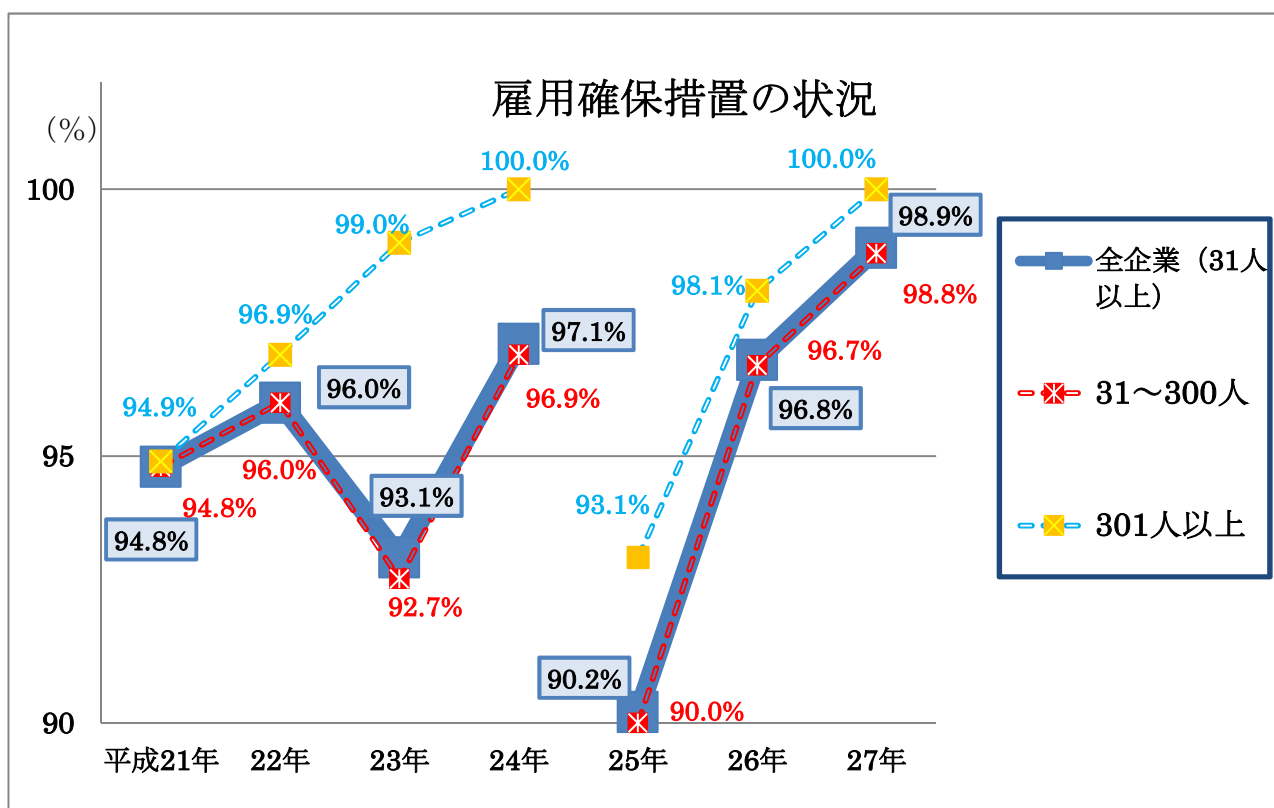
高年齢者雇用確保措置(以下「雇用確保措置」という。)の実施済企業の割合は98.9%(1,752社)(対前年差2.1ポイント増加)、51人以上規模の企業で99.4%(1,039社)(同2.0ポイント増加)となっている。

雇用確保措置が未実施である企業の割合は1.1%(20社)(同2.1ポイント減少)、51人以上規模企業で0.6%(6社)(同2.0ポイント減少)となっている。(10ページ表1)

(2) 企業規模別の状況

雇用確保措置の実施済企業の割合を企業規模別に見ると、大企業では100.0%(105社)(同1.9ポイントの増加)、中小企業では98.8%(1,647社)(同2.1ポイントの増加)となっている。(10ページ表1)

<参考グラフ>



※ 平成25年4月に制度改正(継続雇用制度の対象者を限定できる仕組みの廃止)があったため、平成24年以前と25年以降の数値は単純比較できない。

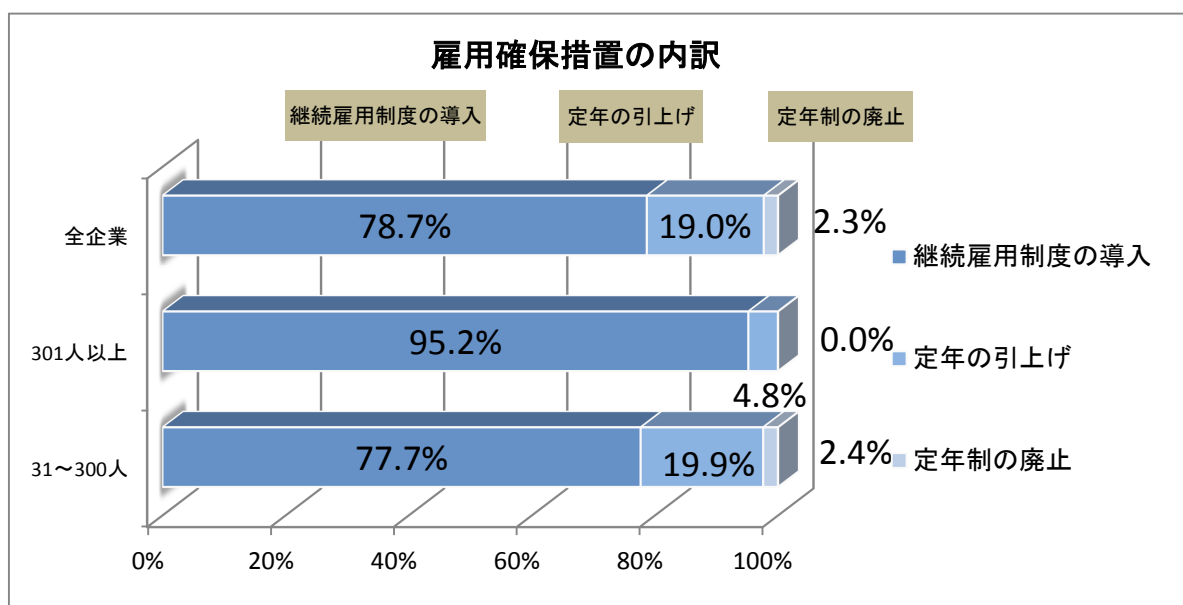
(3) 雇用確保措置の内訳

雇用確保措置の実施済企業のうち、

- ① 「定年制の廃止」により雇用確保措置を講じている企業は 2.3% (40 社) (同 0.1 ポイントの減少)、
- ② 「定年の引上げ」により雇用確保措置を講じている企業は 19.0% (333 社) (同 0.7 ポイントの増加)、
- ③ 「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業は 78.7% (1,379 社) (同 0.7 ポイントの減少)

となっており、定年制度(①、②)により雇用確保措置を講じるよりも、継続雇用制度(③)により雇用確保措置を講じる企業の比率が高い。(11 ページ表 3-1)

<参考グラフ>

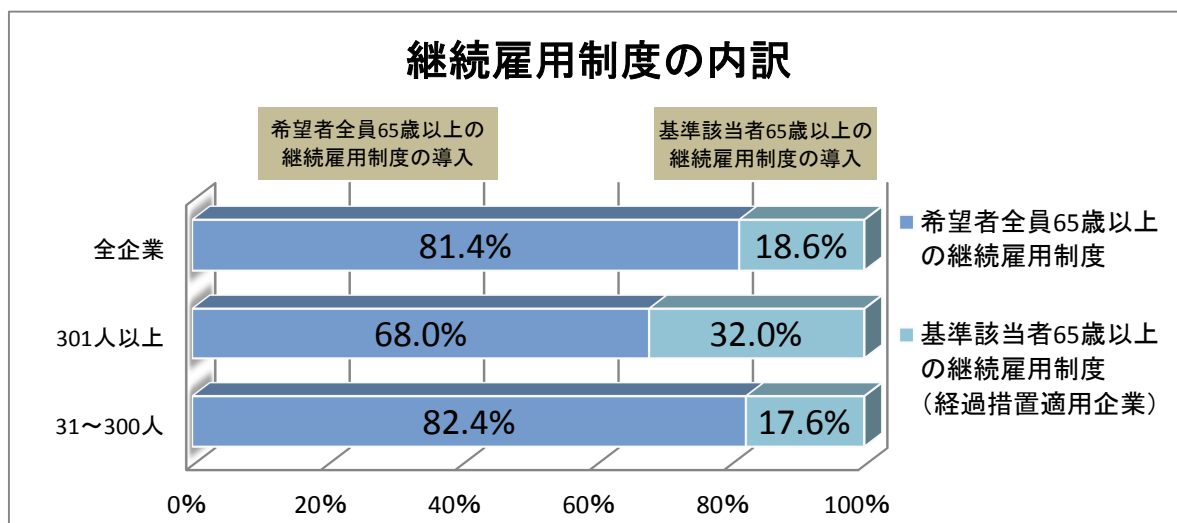


(4) 継続雇用制度の内訳

「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業(1,379 社)のうち、

- ① 希望者全員を対象とする 65 歳以上の継続雇用制度を導入している企業は 81.4% (1,122 社) (同 0.2 ポイント減少)
- ② 高年齢者雇用安定法一部改正法の経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準がある継続雇用制度を導入している企業(経過措置適用企業)は 18.6% (257 社) (同 0.2 ポイントの増加)となっている。(11 ページ表 3-2)

<参考グラフ>



(5) 継続雇用先の内訳

「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業(1,379社)の継続雇用先について、自社のみである企業は96.4%(1,330社)(前年と同率)、自社以外の継続雇用先(親会社・子会社、関連会社等)のある企業は3.6%(49社)(前年と同率)となっている。

(11 ページ表 3-3)

2 希望者全員が65歳以上まで働ける企業等について

(1) 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

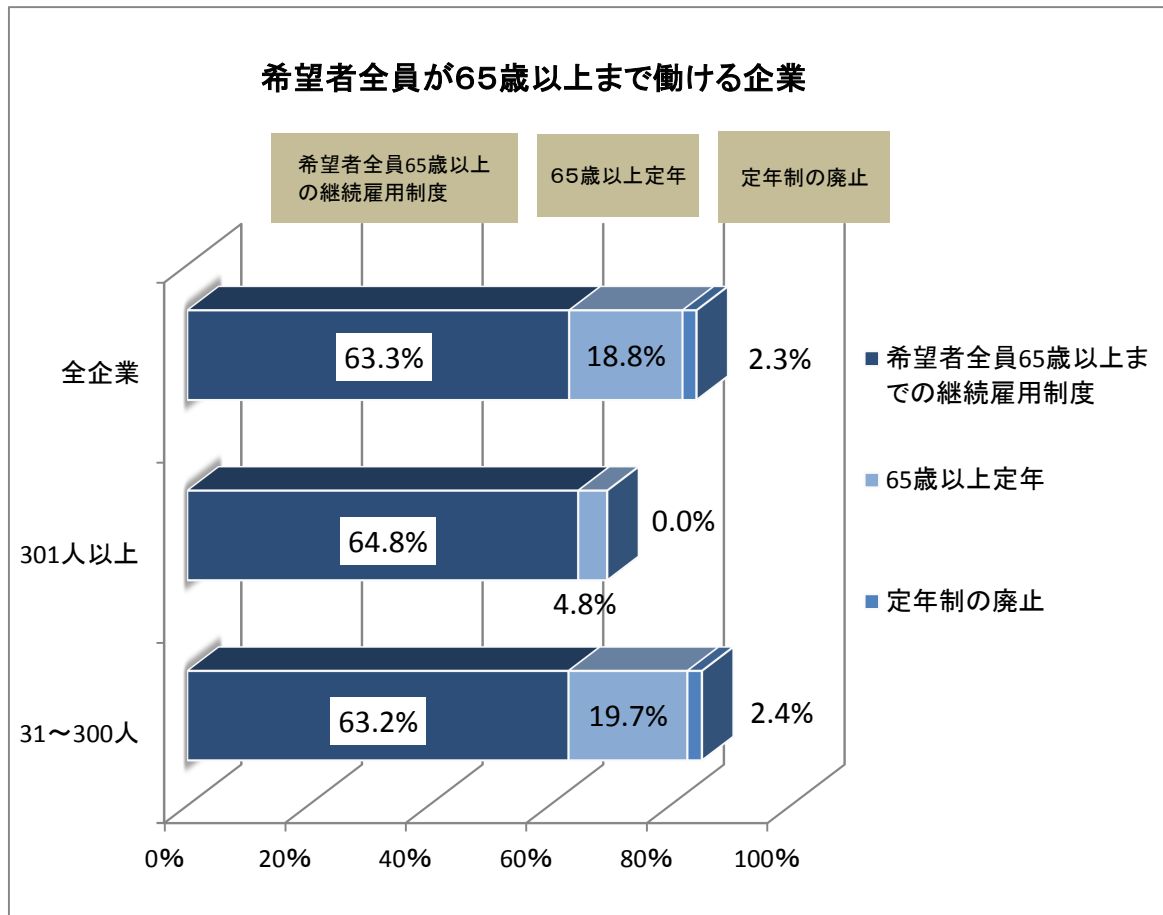
希望者全員が65歳以上まで働ける企業は1,495社(対前年差93社増加)、報告した全ての企業に占める割合は84.4%(同1.7ポイント増加)となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では1,422社(同90社増加)、85.3%(同1.6ポイント増加)、
- ② 大企業では73社(同3社増加)、69.5%(同2.2ポイント増加)となっている。

(12 ページ表 4)

<参考グラフ>



(2) 70歳以上まで働ける企業の状況

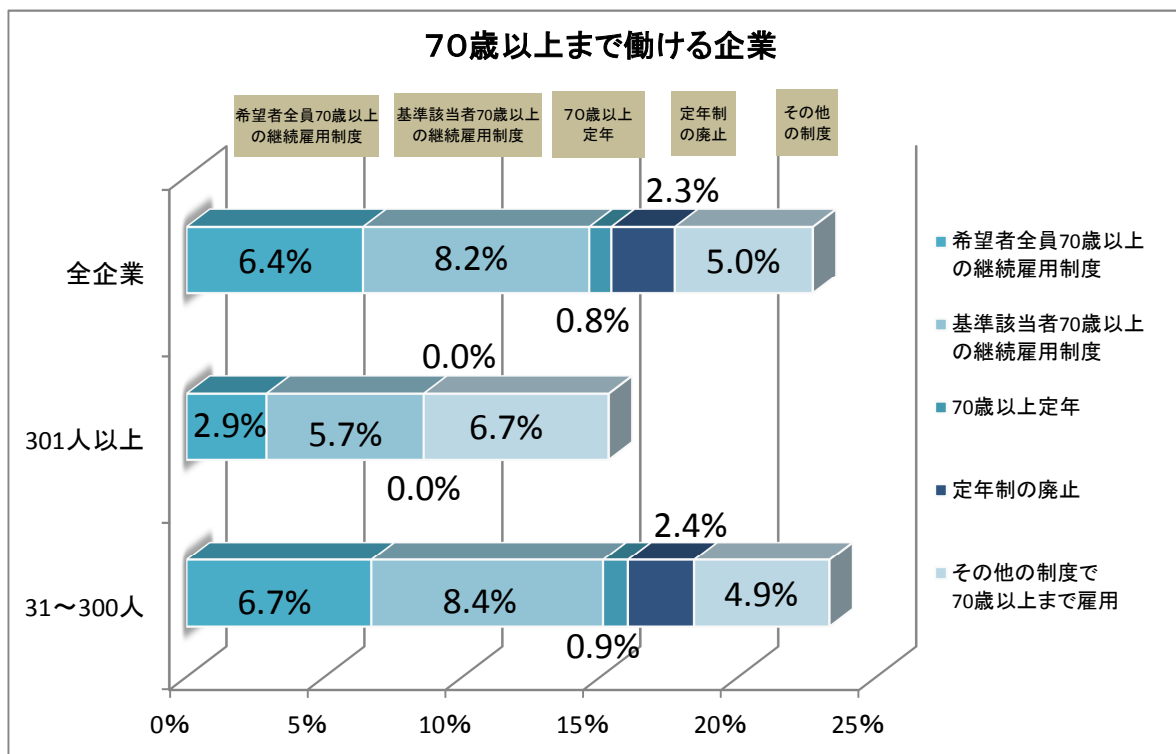
70歳以上まで働ける企業は404社(同42社増加)、報告した全ての企業に占める割合は22.8%(同1.5ポイント増加)となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では388社(同41社増加)、23.3%(同1.5ポイント増加)、
- ② 大企業では16社(同1社増加)、15.2%(同0.8ポイント増加)となっている。

(12 ページ表 5)

<参考グラフ>



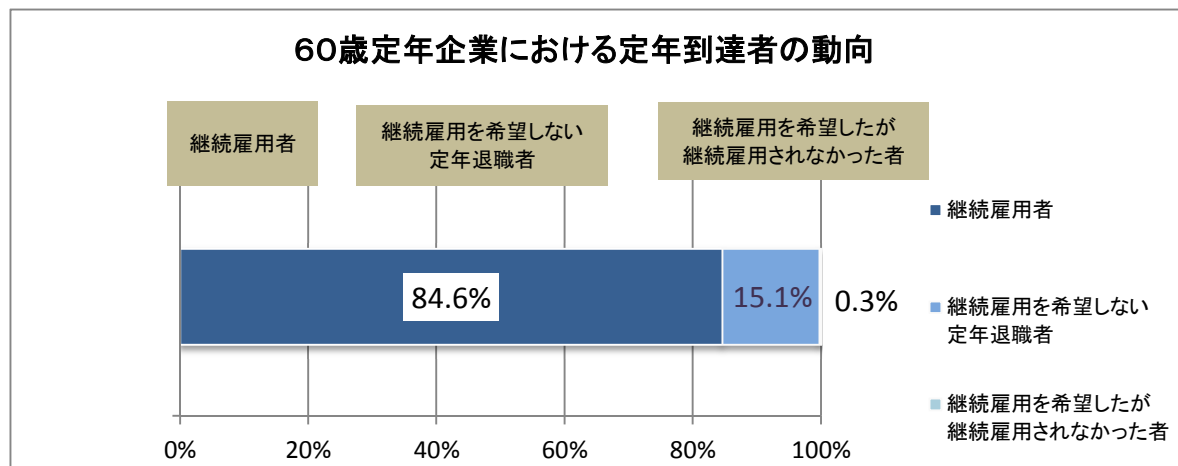
3 定年到達者等の動向について

(1) 定年到達者の動向

過去1年間(平成26年6月1日から平成27年5月31日)の60歳定年企業における定年到達者(2,759人)のうち、継続雇用された者は2,334人(84.6%) (うち子会社・関連会社等での継続雇用者は41人)、継続雇用を希望しない定年退職者は417人(15.1%)、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった者は8人(0.3%)となっている。

(14 ページ表 7-1)

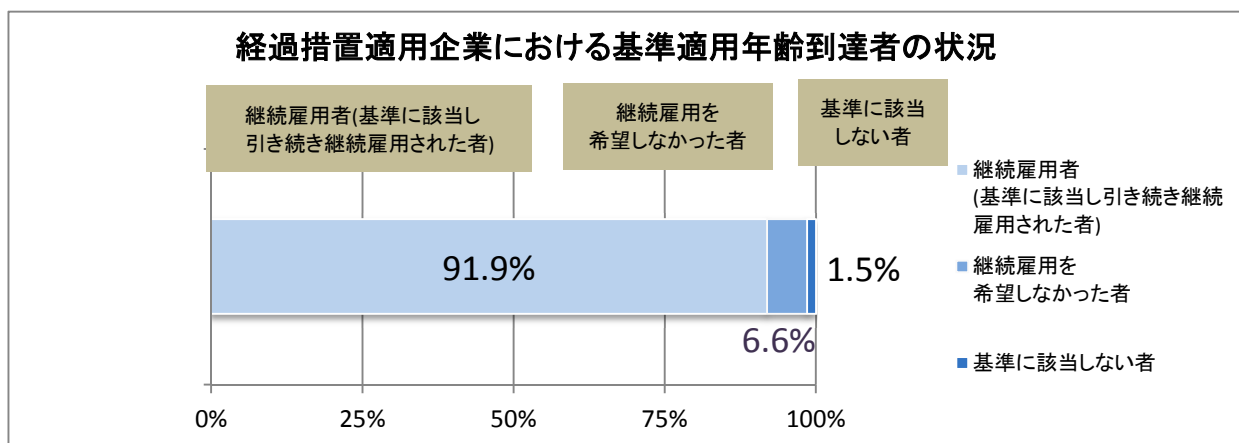
<参考グラフ>



(2) 経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準の適用状況

平成 26 年 6 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日までの間に、経過措置に基づく対象者を限定する基準がある企業において、基準を適用できる年齢(61 歳)に到達した者(335 人)のうち、基準に該当し引き続き継続雇用された者は 308 人(91.9%)、継続雇用の更新を希望しなかった者は 22 人(6.6%)、継続雇用を希望したが基準に該当せずに継続雇用が終了した者は 5 人(1.5%)となっている。(14 ページ表 7-2)

<参考グラフ>



4 高齢労働者の状況

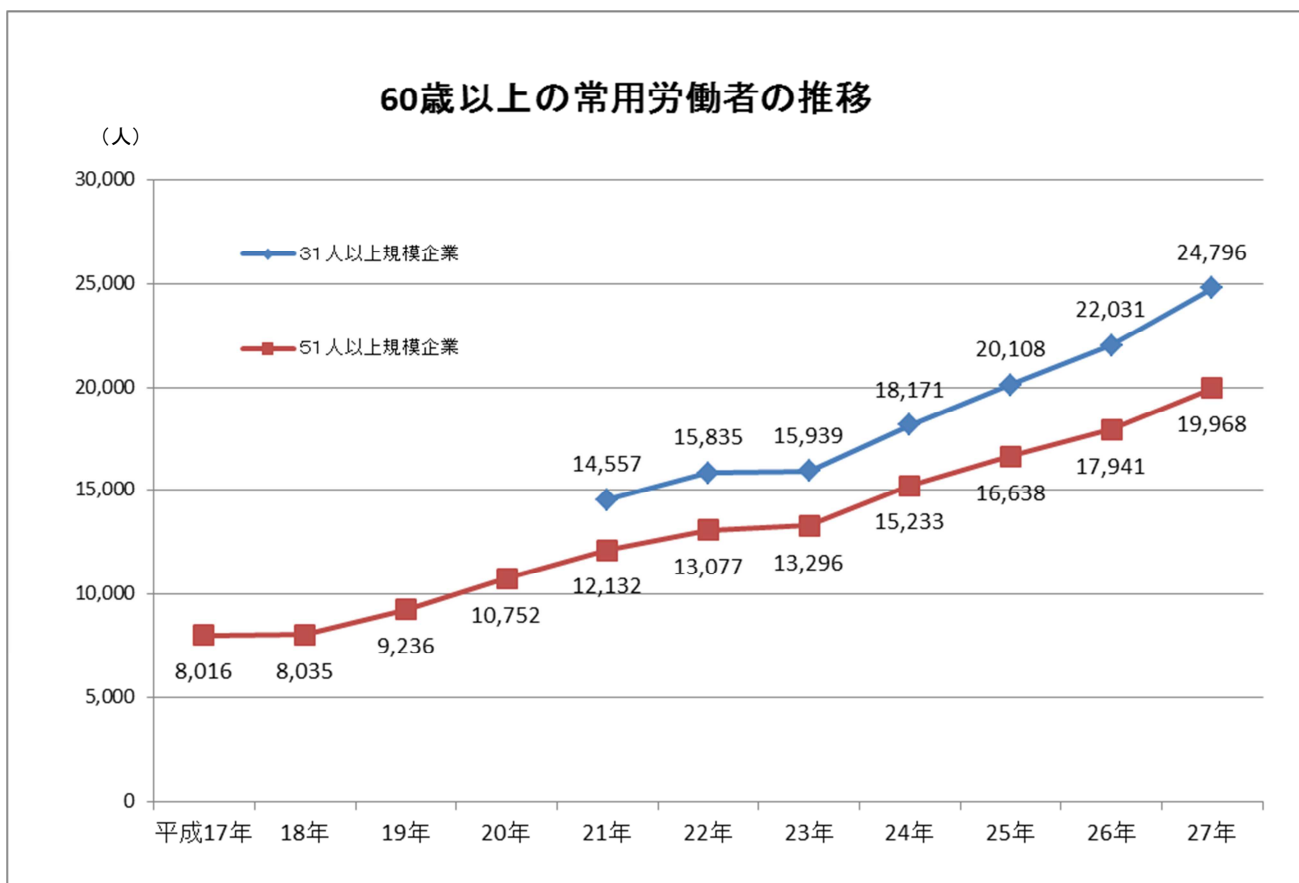
(1) 年齢階級別の常用労働者数について

31 人以上規模企業における常用労働者数(193,881 人)のうち、60 歳以上の常用労働者数は 24,796 人で 12.8%を占めている。年齢階級別にみると、60～64 歳が 16,487 人、65～69 歳が 6,507 人、70 歳以上が 1,802 人となっている。(15 ページ表 8)

(2) 雇用確保措置の義務化後の高年齢労働者の推移

51人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は19,968人であり、雇用確保措置の義務化前(平成17年)と比較すると、11,952人増加している。31人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は24,796人であり、平成21年と比較すると、10,239人増加している。(15ページ表8)

<参考グラフ>



5 今後の取組

(1) 雇用確保措置の定着に向けた取組

雇用確保措置が未実施である企業(31人以上規模企業)が20社あることから、岩手労働局、ハローワークによる個別指導を強力に実施し、早期解消を図る。

(2) 生涯現役社会の実現に向けた取組

少子・高齢化の進行、将来の労働力人口の低下等を踏まえ、生涯現役社会の実現に向け、65歳までの雇用確保を基盤としつつ、高年齢者雇用安定法の義務を超え、年齢にかかわらず働き続けることが可能な企業の普及・啓発等に取り組む。

表1 雇用確保措置の実施状況

(社、%)

	①実施済み		②未実施		合計(①+②)	
31~300人	1,647	(1,540)	20	(52)	1,667	(1,592)
	98.8%	(96.7%)	1.2%	(3.3%)	100.0%	(100.0%)
31~50人	713	(648)	14	(27)	727	(675)
	98.1%	(96.0%)	1.9%	(4.0%)	100.0%	(100.0%)
51~300人	934	(892)	6	(25)	940	(917)
	99.4%	(97.3%)	0.6%	(2.7%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	105	(102)	0	(2)	105	(104)
	100.0%	(98.1%)	0.0%	(1.9%)	100.0%	(100.0%)
31人以上 総計	1,752	(1,642)	20	(54)	1,772	(1,696)
	98.9%	(96.8%)	1.1%	(3.2%)	100.0%	(100.0%)
51人以上 総計	1,039	(994)	6	(27)	1,045	(1,021)
	99.4%	(97.4%)	0.6%	(2.6%)	100.0%	(100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表2 規模別・産業別実施状況

(%)

規模別		①実施済企業割合		②未実施企業割合		
	31~50人	98.1%	(96.0%)	1.9%	(4.0%)	
51~100人	99.5%	(97.5%)	0.5%	(2.5%)		
101~300人	99.1%	(96.8%)	0.9%	(3.2%)		
301~500人	100.0%	(98.2%)	0.0%	(1.8%)		
501~1,000人	100.0%	(97.0%)	0.0%	(3.0%)		
1,001人以上	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)		
合計	98.9%	(90.2%)	1.1%	(3.2%)		
産業別		31人以上	51人以上	31人以上	51人以上	
	農、林、漁業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%
鉱業、採石業、砂利採取業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
建設業	98.3%	(99.5%)	98.8%	(100.0%)	1.7%	(0.5%)
製造業	99.0%	(97.8%)	99.6%	(98.8%)	1.0%	(2.2%)
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
情報通信業	100.0%	(86.2%)	100.0%	(77.8%)	0.0%	(13.8%)
運輸、郵便業	98.4%	(94.4%)	100.0%	(93.1%)	1.6%	(5.6%)
卸売業、小売業	98.4%	(96.9%)	98.7%	(97.3%)	1.6%	(3.1%)
金融業、保険業	94.1%	(95.5%)	100.0%	(100.0%)	5.9%	(4.5%)
不動産業、物品賃貸業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
学術研究、専門・技術サービス業	96.3%	(96.0%)	92.3%	(100.0%)	3.7%	(4.0%)
宿泊業、飲食サービス業	100.0%	(97.2%)	100.0%	(97.5%)	0.0%	(2.8%)
生活関連サービス業、娯楽業	100.0%	(94.9%)	100.0%	(95.2%)	0.0%	(5.1%)
教育、学習支援業	97.3%	(96.8%)	100.0%	(93.8%)	2.7%	(3.2%)
医療、福祉	99.1%	(96.0%)	99.6%	(97.3%)	0.9%	(4.0%)
複合サービス事業	100.0%	(90.5%)	100.0%	(92.3%)	0.0%	(9.5%)
サービス業(他に分類されないもの)	100.0%	(96.6%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(3.4%)
その他	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)
合計	98.9%	(96.8%)	99.4%	(97.4%)	1.1%	(3.2%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表3-1 雇用確保措置実施企業における措置内容の内訳

(社、%)

	①定年制の廃止		②定年の引上げ		③継続雇用制度の導入		合計(①+②+③)	
31~300人	40	(39)	328	(295)	1,279	(1,206)	1,647	(1,540)
	2.4%	2.5%	19.9%	19.2%	77.7%	78.3%	100.0%	100.0%
31~50人	29	(27)	176	(151)	508	(470)	713	(648)
	4.1%	4.2%	24.7%	23.3%	71.2%	72.5%	100.0%	100.0%
51~300人	11	(12)	152	(144)	771	(736)	934	(892)
	1.2%	1.3%	16.3%	16.1%	82.5%	82.5%	100.0%	100.0%
301人以上	0	(0)	5	(5)	100	(97)	105	(102)
	0.0%	0.0%	4.8%	4.9%	95.2%	95.1%	100.0%	100.0%
31人以上総計	40	(39)	333	(300)	1,379	(1,303)	1,752	(1,642)
	2.3%	2.4%	19.0%	18.3%	78.7%	79.4%	100.0%	100.0%
51人以上総計	11	(12)	157	(149)	871	(833)	1,039	(994)
	1.1%	1.2%	15.1%	15.0%	83.8%	83.8%	100.0%	100.0%

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「合計」は表1の「①実施済み」に対応している。

「②定年の引上げ」は65歳以上の定年の定めを設けている企業、「③継続雇用制度の導入」は定年年齢は65歳未満だが継続雇用制度の年齢を65歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

表3-2 継続雇用制度の内訳

(社、%)

	①希望者全員65歳以上の継続雇用制度		②基準該当者65歳以上の継続雇用制度(経過措置適用企業)		合計(①+②)	
31~300人	1,054	(998)	225	(208)	1,279	(1,206)
	82.4%	82.8%	17.6%	17.2%	100.0%	100.0%
31~50人	434	(410)	74	(60)	508	(470)
	85.4%	87.2%	14.6%	12.8%	100.0%	100.0%
51~300人	620	(588)	151	(148)	771	(736)
	80.4%	79.9%	19.6%	20.1%	100.0%	100.0%
301人以上	68	(65)	32	(32)	100	(97)
	68.0%	67.0%	32.0%	33.0%	100.0%	100.0%
31人以上総計	1,122	(1,063)	257	(240)	1,379	(1,303)
	81.4%	81.6%	18.6%	18.4%	100.0%	100.0%
51人以上総計	688	(653)	183	(180)	871	(833)
	79.0%	78.4%	21.0%	21.6%	100.0%	100.0%

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表3-3 継続雇用先の内訳

(社、%)

	①自社のみ	自社以外の継続雇用先がある企業							小計(②~⑦)	合計(①~⑦)								
		②自社、親会社・子会社	③自社、関連会社等	④自社、親会社・子会社、関連会社等	⑤親会社・子会社	⑥親会社・子会社、関連会社等	⑦関連会社等											
31~300人	1,243	(1,171)	19	(19)	6	(5)	10	(9)	1	(2)	0	(0)	0	(0)	36	(35)	1,279	(1,206)
	97.2%	(97.1%)	1.5%	(1.6%)	0.5%	(0.4%)	0.8%	(0.7%)	0.1%	(0.2%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	2.8%	(2.9%)	100.0%	(100.0%)
31~50人	495	(461)	9	(5)	2	(3)	1	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	13	(9)	508	(470)
	97.4%	(98.1%)	1.8%	(1.1%)	0.4%	(0.6%)	0.2%	(0.2%)	0.2%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	2.6%	(1.9%)	100.0%	(100.0%)
51~300人	748	(710)	10	(14)	4	(2)	9	(8)	0	(2)	0	(0)	0	(0)	23	(26)	771	(736)
	97.0%	(96.4%)	1.3%	(1.9%)	0.5%	(0.3%)	1.2%	(1.1%)	0.0%	(1.0%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	3.0%	(3.5%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	87	(85)	8	(9)	3	(2)	2	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	13	(12)	100	(97)
	87.0%	(87.6%)	8.0%	(9.3%)	3.0%	(2.1%)	2.0%	(0.0%)	0.0%	(0.3%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	13.0%	(12.4%)	100.0%	(100.0%)
31人以上総計	1,330	(1,256)	27	(28)	9	(7)	12	(9)	1	(3)	0	(0)	0	(0)	49	(47)	1,379	(1,303)
	96.4%	(96.4%)	2.0%	(2.1%)	0.7%	(0.4%)	0.9%	(0.7%)	0.1%	(0.4%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	3.6%	(3.6%)	100.0%	(100.0%)
51人以上総計	835	(795)	18	(23)	7	(4)	11	(8)	0	(3)	0	(0)	0	(0)	36	(38)	871	(833)
	95.9%	(95.4%)	2.1%	(2.8%)	0.8%	(0.5%)	1.3%	(1.0%)	0.0%	(0.4%)	0.0%	(0.0%)	0.0%	(0.0%)	4.1%	(4.6%)	100.0%	(100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表4 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

(社、%)

				合計 (①+②+③)	報告した全ての企業
	① 定年制の廃止	② 65歳以上定年	③ 希望者全員65歳 以上の継続雇用 制度		
31~300人	40 (39)	328 (295)	1,054 (998)	1,422 (1,332)	1,667 (1,592)
	2.4% (2.4%)	19.7% (18.5%)	63.2% (62.7%)	85.3% (83.7%)	100.0% (100.0%)
31~50人	29 (27)	176 (151)	434 (410)	639 (588)	727 (675)
	4.0% (4.0%)	24.2% (22.4%)	59.7% (60.7%)	87.9% (87.1%)	100.0% (100.0%)
51~300人	11 (12)	152 (144)	620 (588)	783 (744)	940 (917)
	1.2% (1.3%)	16.2% (15.7%)	66.0% (64.1%)	83.3% (81.1%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (0)	5 (5)	68 (65)	73 (70)	105 (104)
	0.0% (0.0%)	4.8% (4.8%)	64.8% (62.5%)	69.5% (67.3%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	40 (39)	333 (300)	1,122 (1,063)	1,495 (1,402)	1,772 (1,696)
	2.3% (2.3%)	18.8% (17.7%)	63.3% (62.7%)	84.4% (82.7%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	11 (12)	157 (149)	688 (653)	856 (814)	1,045 (1,021)
	1.1% (1.2%)	15.0% (14.6%)	65.8% (64.0%)	81.9% (79.7%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「希望者全員が65歳以上まで働ける企業」は「定年制の廃止」、「65歳以上定年」及び「希望者全員65歳以上継続雇用」の合計である。

「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表5 「70歳以上まで働ける企業」の状況

(社、%)

			③70歳以上までの継続雇用制度		④ その他の制度で 70歳以上まで雇用	合計 (①+②+③+④)	報告した全ての企業
	① 定年制の廃止	② 70歳以上定年	希望者全員70歳 以上	基準該当者70歳 以上			
	31~300人	40 (39)	15 (14)	111 (95)	140 (131)	82 (68)	388 (347)
2.4% (2.4%)		0.9% (0.9%)	6.7% (6.0%)	8.4% (8.2%)	4.9% (4.3%)	23.3% (21.8%)	100.0% (100.0%)
31~50人	29 (27)	10 (9)	54 (44)	63 (58)	32 (26)	188 (164)	727 (675)
	4.0% (4.0%)	1.4% (1.3%)	7.4% (6.5%)	8.7% (8.6%)	4.4% (3.9%)	25.9% (24.3%)	100.0% (100.0%)
51~300人	11 (12)	5 (5)	57 (51)	77 (73)	50 (42)	200 (183)	940 (917)
	1.2% (1.3%)	0.5% (0.5%)	6.1% (5.6%)	8.2% (8.0%)	5.3% (4.6%)	21.3% (20.0%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (0)	0 (0)	3 (2)	6 (6)	7 (7)	16 (15)	105 (104)
	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.9% (1.9%)	5.7% (5.8%)	6.7% (6.7%)	15.2% (14.4%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	40 (39)	15 (14)	114 (97)	146 (137)	89 (75)	404 (362)	1,772 (1,696)
	2.3% (2.3%)	0.8% (0.8%)	6.4% (5.7%)	8.2% (8.1%)	5.0% (4.4%)	22.8% (21.3%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	11 (12)	5 (5)	60 (53)	83 (79)	57 (49)	216 (198)	1,045 (1,021)
	1.1% (1.2%)	0.5% (0.5%)	5.7% (5.2%)	7.9% (7.7%)	5.5% (4.8%)	20.7% (19.4%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「70歳以上まで働ける企業」は「定年制の廃止」、「70歳以上定年」、「70歳以上までの継続雇用制度」及び「その他の制度で70歳以上までの雇用」の合計である。

「その他の制度で70歳以上まで雇用」とは、希望者全員や、基準該当者を70歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで70歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表6 都道府県別の状況

(%)

	雇用確保措置導入企業割合		希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合		70歳以上まで働ける企業割合	
北海道	99.2%	(98.9%)	74.2%	(72.9%)	19.1%	(17.6%)
青森	99.2%	(98.0%)	78.4%	(76.4%)	22.2%	(21.0%)
岩手	98.9%	(96.8%)	84.4%	(82.7%)	22.8%	(21.3%)
宮城	98.7%	(98.7%)	74.7%	(73.5%)	21.1%	(18.7%)
秋田	99.5%	(99.4%)	80.5%	(79.9%)	30.9%	(27.5%)
山形	99.2%	(97.3%)	71.8%	(69.2%)	16.7%	(15.5%)
福島	98.8%	(97.8%)	76.1%	(73.4%)	18.8%	(16.9%)
茨城	99.6%	(98.5%)	78.5%	(77.5%)	19.3%	(19.0%)
栃木	99.8%	(99.7%)	75.5%	(74.5%)	17.3%	(16.0%)
群馬	98.3%	(97.2%)	77.6%	(75.1%)	18.5%	(17.3%)
埼玉	99.3%	(98.4%)	79.2%	(78.1%)	21.7%	(19.8%)
千葉	98.8%	(96.1%)	74.1%	(71.8%)	25.8%	(24.0%)
東京	99.4%	(98.9%)	66.9%	(65.2%)	15.2%	(15.0%)
神奈川	99.3%	(97.5%)	72.7%	(70.7%)	19.0%	(18.0%)
新潟	99.2%	(98.5%)	75.3%	(74.2%)	22.6%	(18.6%)
富山	99.8%	(98.6%)	69.8%	(67.5%)	28.9%	(26.9%)
石川	98.3%	(96.8%)	75.0%	(73.0%)	18.1%	(17.0%)
福井	99.9%	(99.5%)	73.3%	(71.1%)	16.9%	(16.9%)
山梨	99.2%	(98.2%)	72.0%	(70.6%)	17.6%	(16.7%)
長野	99.4%	(98.9%)	76.9%	(75.9%)	24.0%	(22.4%)
岐阜	99.9%	(99.1%)	80.3%	(79.3%)	24.2%	(23.2%)
静岡	99.5%	(99.2%)	77.1%	(76.4%)	23.4%	(21.6%)
愛知	99.5%	(99.0%)	71.9%	(69.6%)	23.7%	(22.6%)
三重	99.9%	(99.8%)	78.1%	(78.0%)	23.2%	(23.1%)
滋賀	98.4%	(96.9%)	71.6%	(70.3%)	19.2%	(17.3%)
京都	99.2%	(97.1%)	76.1%	(73.8%)	18.6%	(16.9%)
大阪	99.3%	(98.2%)	67.7%	(66.3%)	19.1%	(18.5%)
兵庫	99.0%	(97.8%)	70.9%	(69.5%)	19.3%	(18.3%)
奈良	97.6%	(95.2%)	77.2%	(76.3%)	24.2%	(21.1%)
和歌山	99.0%	(98.2%)	76.2%	(75.5%)	21.0%	(20.1%)
鳥取	98.2%	(98.3%)	69.3%	(68.5%)	20.1%	(18.5%)
島根	99.8%	(99.7%)	78.5%	(77.6%)	28.8%	(25.5%)
岡山	98.8%	(97.3%)	73.6%	(71.2%)	23.3%	(22.4%)
広島	99.5%	(99.3%)	74.1%	(73.6%)	20.3%	(20.2%)
山口	99.6%	(98.8%)	73.6%	(73.1%)	24.9%	(24.3%)
徳島	100.0%	(96.7%)	74.2%	(71.7%)	23.5%	(23.1%)
香川	99.7%	(97.6%)	75.2%	(72.8%)	23.0%	(21.7%)
愛媛	99.6%	(99.2%)	67.3%	(65.2%)	24.2%	(23.0%)
高知	99.9%	(97.9%)	68.2%	(67.0%)	18.1%	(16.8%)
福岡	97.3%	(95.1%)	68.6%	(66.8%)	19.5%	(17.9%)
佐賀	98.6%	(97.9%)	65.9%	(64.4%)	21.4%	(18.4%)
長崎	97.8%	(96.4%)	69.3%	(70.2%)	21.9%	(20.8%)
熊本	98.2%	(96.4%)	72.5%	(71.6%)	16.7%	(16.4%)
大分	99.7%	(99.1%)	83.5%	(81.8%)	21.5%	(20.6%)
宮崎	99.8%	(96.1%)	79.0%	(75.7%)	24.5%	(22.9%)
鹿児島	98.6%	(97.7%)	76.5%	(76.5%)	20.3%	(19.1%)
沖縄	98.7%	(94.8%)	68.9%	(66.5%)	16.3%	(17.2%)
全国計	99.2%	(98.1%)	72.5%	(71.0%)	20.1%	(19.0%)

※31人以上規模企業の状況

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表7-1 60歳定年企業における定年到達者等の状況

	企業数 (社)	定年到達者総数 (人)	継続雇用者数		うち子会社等・関連会社等での 継続雇用者数		定年退職者数 (継続雇用を希望しない者)		定年退職者数 (継続雇用を希望したが継続 雇用されなかった者)			継続雇用 の終了によ る離職数 (人)
			継続雇用者数									
60歳定年企業で 定年到達者がいる企業等	881	2,759	2,334	84.6% (84.8%)	41	1.5% (0.7%)	417	15.1% (14.9%)	8	0.3% (0.3%)		421
うち女性	461	1,173	996	84.9% (83.1%)	4	0.3% (0.2%)	174	14.8% (14.9%)	3	0.3% (0.3%)		172

※過去1年間(平成26年6月1日から平成27年5月31日)に60歳定年企業において定年年齢に到達した者について集計している。

()内は平成26年6月1日現在の数値。

「継続雇用の終了による離職者数」は継続雇用制度における上限年齢に到達したことによる離職者の数。

表7-2 経過措置適用企業における基準適用年齢到達者の状況

	企業数 (社)	基準を適用 できる年齢に 到達した 者の総数 (人)	継続雇用者数 (基準に該当し引き続き継続雇用 された者)		継続雇用終了者数 (継続雇用の更新を 希望しない者)		継続雇用終了者数 (基準に該当しない者)		
			継続雇用者数						
経過措置適用企業で基準 適用年齢到達者(61歳)が いる企業	118	335	308	91.9% (92.5%)	22	6.6% (7.5%)	5	1.5% (0.0%)	
うち女性	45	98	93	94.9% (91.1%)	5	5.1% (8.9%)	0	0.0% (0.0%)	

※平成26年6月1日から平成27年5月31日に経過措置適用企業(60歳、61歳定年企業)において基準適用年齢に到達した者について集計している。

()内は平成26年6月1日現在の数値。

表8 年齢別常用労働者数

(人)

		年齢計		60歳以上合計		60～64歳		65歳以上 (平成25年以降はうち70歳以上)	
51人以上 規模企業	平成17年	141,707人	(100.0)	8,016人	(100.0)	5,778人	(100.0)	2,238人	(100.0)
	平成18年	142,680人	(100.7)	8,035人	(100.2)	5,709人	(98.8)	2,326人	(103.9)
	平成19年	146,081人	(103.1)	9,236人	(115.2)	6,672人	(115.5)	2,564人	(114.6)
	平成20年	151,728人	(107.1)	10,752人	(134.1)	7,885人	(136.5)	2,867人	(128.1)
	平成21年	150,602人	(106.3)	12,132人	(151.3)	9,036人	(156.4)	3,096人	(138.3)
	平成22年	150,378人	(106.1)	13,077人	(163.1)	9,881人	(171.0)	3,196人	(142.8)
	平成23年	148,687人	(104.9)	13,296人	(165.9)	10,359人	(179.3)	2,937人	(131.2)
	平成24年	156,533人	(110.5)	15,233人	(190.0)	11,600人	(200.8)	3,633人	(162.3)
	平成25年	161,162人	(113.7)	16,638人	(207.6)	12,264人	(212.3)	4,374人 (1,003人)	(195.4)
	平成26年	162,601人	(114.7)	17,941人	(223.8)	12,745人	(220.6)	5,196人 (1,193人)	(287.4)
平成27年	165,337人	(116.7)	19,968人	(249.1)	13,536人	(234.3)	6,432人 (1,331人)	(287.4)	
31人以上 規模企業	平成21年	173,719人	(100.0)	14,557人	(100.0)	10,802人	(100.0)	3,755人	(100.0)
	平成22年	174,343人	(100.4)	15,835人	(108.8)	11,925人	(110.4)	3,910人	(104.1)
	平成23年	171,147人	(98.5)	15,939人	(109.5)	12,330人	(114.1)	3,609人	(96.1)
	平成24年	180,216人	(103.7)	18,171人	(124.8)	13,753人	(127.3)	4,418人	(117.7)
	平成25年	186,581人	(107.4)	20,108人	(138.1)	14,719人	(136.3)	5,389人 (1,247人)	(143.5)
	平成26年	189,378人	(109.0)	22,031人	(151.3)	15,450人	(143.0)	6,581人 (1,506人)	(221.3)
	平成27年	193,881人	(111.6)	24,796人	(170.3)	16,487人	(152.6)	8,309人 (1,802人)	(221.2)

※()内は平成17年を100とした場合の比率(31人以上は平成21年を100とした場合の比率)